

強みを持ち寄った獣医学教育で国際水準のカリキュラムを実現

山口大学／鹿児島大学

山口大学と鹿児島大学それぞれの農学部獣医学科は、2012年度に共同獣医学部として新たなスタートを切った。同じ分野ながら異なる強みを持つ大学同士の戦略的連携が、大学地図を塗り替える可能性もある。獣医学の積年の課題である、国際水準の人材育成をめざす改革について、山口大学に取材した。

連合獣医学研究科での教員の交流がベース

山口大学と鹿児島大学の共同獣医学部は、それぞれが作成した問題で別々の入試を実施するが、「1つの教育課程」なので、カリキュラムやシラバスはすべて共通。同じ試験で成績を評価し、両大学連名の学位を授与する。組織の融合によって、学部教育を担う教員は65人（山口大学32人、鹿児島大学33人）と、それぞれの大学にとって倍増した。

現在、日本の獣医学の水準は先進諸国の中では、決して高いレベルにはない。他国と肩を並べるため、また、食の安全や人獣共通感染症の制圧などのために、教育・研究水準の高度化が求められている。この課題に各大学が個別に対応するのは、教員・資金不足のため困難だ。

そうした中、文部科学省が大学設置基準を改正し、2009年から、複数の大学が共同で教育課程を編成できるようになった。

山口大学には、連携を推し進めるもう一つの理由がある。「18歳人口が減

少する中、生き残るには教育の特長を打ち出すことが不可欠。そこで大学改革の一環として、他大学と連携することによって教育の充実を図るこの取り組みを推進した経緯がある」と共同獣医学部の土田誠学務係長は言う。

山口大学は、福岡と広島という大都市の間にあり、伴侶（ペット）動物医療や感染症予防の分野に強い。一方、鹿児島で畜産が盛んなこともあり、鹿児島大学は産業動物医療の分野に強い。互いの強みを共有することによって教育内容が充実し、大学・学部の特長が明確になった。

共同学部の制度化以前の、1990年度には、山口大学を中心に鹿児島大学、鳥取大学、宮崎大学（2010年脱退）が連合獣医学研究科を設置。そこで教員の交流があったことや、両大学の獣医学科の教育レベルがほぼ同じだったことなどから、共同学部設置の協議はスムーズに進んだ。

教員増と遠隔授業でめざすべき教育が可能に

2011年、日本の獣医学教育の質を

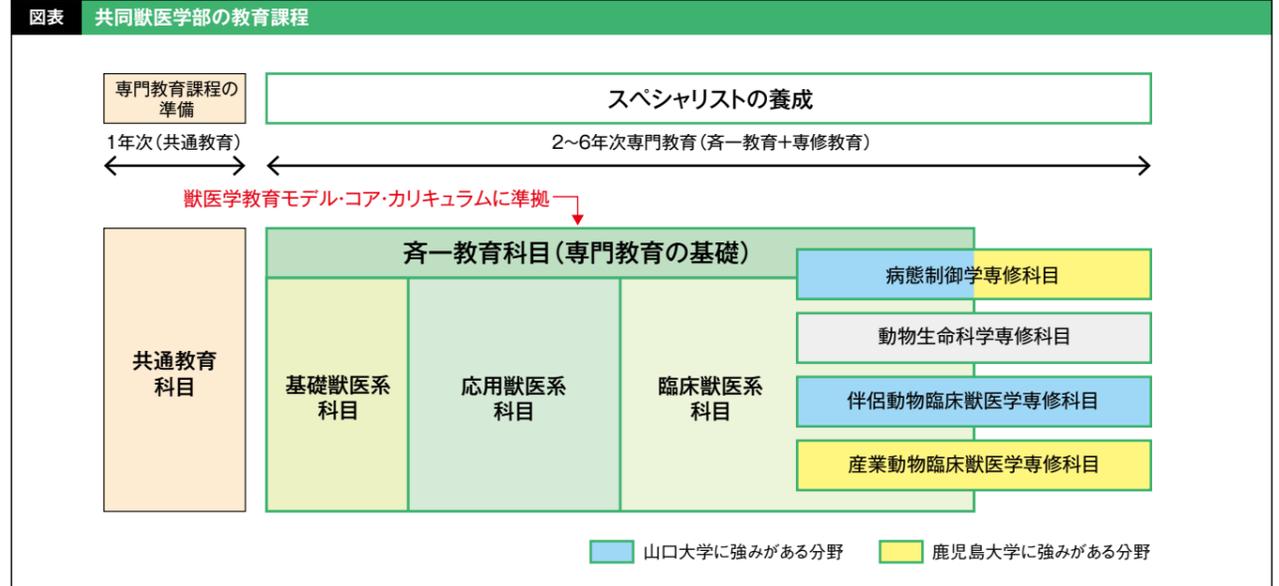
国際水準まで引き上げることを目的に、国公立16大学の獣医学系教員らが中心となり「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」が策定された。2年次から履修する齊一科目（他学部の専門基礎科目に該当）のカリキュラムだ。

各大学がこれに準拠したカリキュラムを編成するには、幅広い分野に対応する多数の教員が必要だ。しかし、獣医学の専門家は民間診療機関や研究機関等に勤務するケースも多く、大学教員は慢性的に不足している。

共同獣医学部になったことによって、それぞれの大学にとって教員が倍増し、多様な専門分野をカバーできるようになった。1期生が2年次になる



遠隔講義システムによる授業風景。後方の画面に鹿児島大学の学生が映っている。



1年次は初期教育科目などの共通教育、2～6年次は獣医学に必須の基本内容からなる齊一教育と、獣医師としての知識と技能を向上させる専修教育で構成される。「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠した齊一教育を2～5年次に、4つの教育分野の科目による専修教育を4～6年次に行う。4、5年次は齊一教育と専修教育が併行して行われる。

2013年度からは、モデル・コア・カリキュラムに準拠した専門教育がスタートする。

座学の授業は、両大学をつなぐリアルタイム双方向型の遠隔講座システムによって行われる。一方の大学で教員が講義を行い、その内容がもう一方の大学に設置されたディスプレイに映し出され、質疑応答も可能だ。このシステムは、講義だけでなく一部の実習にも活用される。これにより、教員が一方の大学にしかない授業科目の授業を他方の大学でも受けることが可能だ。

現在は各大学に2基ずつしかなく、このシステムを使う合同の授業は週に2コマ。2年次以降は大半の授業に適用できるよう、2012年度中に3基ずつ増設する。

学内の附属施設を利用する場合や実習などの合同授業は、対面で行う。これによって生じる交通費などは大学側が負担する予定だ。

共同学部化によって両大学の既存科

目も充実した。ある科目を担当する教員が両大学にいる場合には、シラバスが共通であることを生かして、1つの授業を分担や交互に担当するようなオムニバス方式で行う。これにより既存の科目においても、双方の教員の見地を学べることになり、学生の多面的な理解を促せると期待している。

土田係長は、「共同獣医学部がめざすのは、日本における獣医学の拠点であることはもちろん、欧米の獣医系大学と同等の評価を得たうえで、国際通用性のある教育を展開することであり、そのために、カリキュラム編成や履修システムに共同ならではの利点を生かすこととなる」と話す。

共同学部の魅力を伝える入試広報が課題

共同学部について文部科学省の指針では、「入試の統一が望ましい」とされている。「問題の作成や試験会場の調整など統一が困難な要因があるた

め、当面は各大学で実施していく予定」と土田係長は話す。アドミッションポリシーは共有しており、入試難易度もほぼ同じなので、学生の基礎学力に大きな差はなく、問題はないという。

2012年度入試における共同獣医学部の志願倍率は、両大学とも前年並み。山口大学では、共同学部の強みがそのまま受験生にとっての魅力になると認識していたものの、もともと他学部比べて志願者数が多かったこともあり、特別な入試広報は行わなかったという。

「入学した学生から、共同学部がどのようなものなのかよく理解できず、出願を躊躇してしまったという声を聞いた。共同という名称が、高校生には疑問を感じさせているのかもしれない」とも話す。

次年度入試に向け、わかりやすい説明で広報すれば、国際水準の獣医師の養成という方針に受験生が共感し、志願動向が大きく変わる可能性もある。